

進化する「水なし印刷」

環境、スキルレス、品質向上がもたらす経営メリット

今、水なし印刷が高い評価を受けている。環境保護、品質の安定、スキルレス化がその特徴だ。昨今の環境問題への関心の高まりも追い風には違いないが、版材やインキの改良、印刷機の性能向上、加えて「水あり」からの口滑りな移行、ノウハウの蓄積が普及に拍車をかけている。今回のユ一サーは、1908年(明治41年)創業の今野印刷株式会社(橋浦隆一社長、宮城県仙台市)。「顧客第一主義」をモットーに幅広い印刷物を手掛け、インターネット関連事業やクロスメディア制作にも踏み出して顧客ニーズに応えている。今野印刷における水なし印刷導入の経緯や現状、今後の展開について、橋浦社長、河内和史生産事業部部長に伺った。

今野印刷
(仙台市)
その10

られ、さらなる効率化が
大いに期待できた。また



水なし印刷専用機として稼働しているダブルデッカー

る品質の安定につながった。
現在、同社では印刷物の3分の2以上を水なしで行っており、最終的にはすべて水なし印刷に移行する予定だ。大手電力会社など環境に関心の高い顧客も多く、手ごたえを感じている。
橋浦社長は、「水なし印刷を指定する顧客はまだ東北地方では少ないが、われわれが啓蒙して広めていくという気持ちでいる。水なし印刷のメリットをアピールし、環境面

◆品質の安定を主眼に

今野印刷は現在、インターネット関連事業と年賀状を中心としたオンデマンド事業、そして本業である印刷の3本柱で事業を展開している。カタログや機関誌などページ物の印刷物を多く手掛けている同社は、顧客ニーズの高まりからホームページ作成などのインターネット事業を展開して時代に対応した顧客アプローチに踏み出した。東北のコンビニ発注の年賀状の多くが同社に集まっており、オンデマンド事業では毎年5万件以上の年賀状を印刷している。



橋浦社長(左)と河内部長

長い歴史と実績を持ちながら挑戦を続ける今野印刷は、本業の印刷事業も水なし印刷で強化していくことを決意した。水なし印刷導入のきっかけとなったのは、同社導入のダブルデッカー(アンナウト)が極力抑え

全判8色両面オフセット
枚葉印刷機のさらなる生産性の向上。この機械はページ物で威力を発揮する主力機だが、湿し水不
要の水なし印刷にすることによって、紙伸び(フ

品質安定に加え社内意識向上

環境対応を積極的に啓蒙

昨今の環境問題への関心の高まりも水なし印刷に追い風になっていくと踏み、総合的に興味を持つた。
平成20年6月から水なし印刷のテストを開始し、他社の工場での稼働状況などを見学して長所や短所を見極め、インキ、用紙などが最も安定する温度湿度維持に努力した。
水なし印刷導入以前は、ファンナウトを見越して加減焼きを実施していた。経験値を重ねて計算していたので問題にはなっていなかったが、刷

版部門に確実に負荷をかけていた。腕に頼らざるを得ない部分に手間と気遣うことは、時間やコストに跳ね返る。水なし印刷導入後は見当合わせが格段に容易になり、時間短縮と損紙削減で明確な結果が出た。リスクが減りスキルレスになったことは、他の部分に気を配るようになった。現場を見てきた河内部長は、「水なし印刷導入後は見当精度が高まり、ヤレ紙が格段に減ったと感じる。技術的な手間と時

間だけを考えても本当に上げるのが社員のため取り組んで良かった。刷り始めるからの色再現の安定性も大幅に向上。オ

ペレーターとして次のステップの課題が見えなかった中、水なし印刷に取

り組んだことで自社の課題が明確になり、技術や意識が向上した」と効果を語る。

温湿度を含めた工場環境、印刷機メンテナンスなどすべてをベストの状態に安定させようという

意識のもと、一致団結して導入を進めることで、一つの達成感が現場に生まれた。水なし印刷の導入により工場環境は確実にバージョンアップした。

「社内の思いの共有を大事にしている。社員全員が納得してテーマに取り組んでこそ効果があると考ええる。心に響かなければ人はなかなか動けないが、環境に優しいことをしているという自覚を水なし印刷では得やすい。また、品質の安定や5Sなどを推し進めることは、自分たちが楽しんでい

るものなのだからやってみよう」と、明確な意義を伝えて取り組ませたと橋浦社長は振り返る。

さらに今後の戦略について橋浦社長に問いかけると、「水なし印刷の導入によって、当社は環境問題に取り組んでいる自覚と自信を持ち顧客に接することができるようになった。世の中のニーズに

対応していかなければ企業存続はありえない。紙業の情報は当社の事業の柱だが、必要部数以上の印刷物を作るとは環境への影響も大きいだけでなく、顧客のためにもならない。これからは印刷にこだわらず最適な媒体を供給することが大切だ。印刷に加えてオンデマンドやインターネッ

ト発信という選択肢を持つたうえで、それでも顧客のニーズ、ウォンツを満たす最適な媒体が印刷であるのなら、環境負荷の少ない水なし印刷を提

供するという姿勢をとることで、今まで以上に自社の立ち位置をはっきりさせることができる。県内

において環境で中心的な立場になることで差別化につなげたい」と展望する。

今野印刷は地域誌の発行など地域貢献も積極的に行っており、地元の農

商工連携に関わるプロジェクトや、街づくりに携わる事業も展開する予定だ。今年は病院における

情報提供という事業に、

新聞社と通信会社と組んで参加することが決まった。今野印刷はデジタルサイネージと電子ペーパーを使って、病院内の二

ユーースや地域の情報を届ける仕組みを作る。

新事業について橋浦社長は、「地域のみなさんが興味を持つ情報を提供することで地域活性化のきっかけにしたい。当社の顧客第一主義の実践例

だ。水なし印刷もその大きなビジョンの一環であり、水なし印刷と新事業が補完しあう形をつくっていく。必要な情報を最適な形で届ける仕事は今後もなくならない」と狙

いを語る。水なし印刷や新事業を軸に、顧客に本

当に必要とされる印刷物の提供に邁進していく考

えだ。

えだ。